

2024年3月期決算説明会スクリプト

1/19



2024年3月期 決算説明会

CREATIVE CONNECTIVITY
—Challenge, Creativity, Solutions

SMK株式会社（6798）
2024年5月23日

アジェンダ

2/19

1. FY2023 決算概要 P. 03 – 13
2. FY2024 業績予想 P. 14 – 18

1. FY2023 決算概要

皆さんおはようございます。CFOの大垣でございます。本日は、会場にお越し
いただいている方、オンラインでご参集いただいている方、ご多忙の中ご参加
いただき御礼を申し上げます。私の方からはレジュメに沿いまして、2023年
度実績についてお話をさせていただきます。

4ページをご覧ください。

1-1 FY2023 決算概要 | 全社

4/19

- 在庫調整の長期化、コロナ禍の巣ごもり需要の反動減等により大幅な減収減益に。棚卸資産評価損の計上もあり営業損失が拡大。
- 経常利益は、為替差益等の計上があり、若干の黒字を確保。
- 当期純利益は、減損損失を計上し赤字に。

(単位：百万円)

	FY2022実績	FY2023実績	前期比
売上高	54,842	46,522	△15.2%
営業利益 (営業利益率)	1,128 (2.1%)	△1,243 (△2.7%)	—
経常利益	2,503	226	△91.0%
当期純利益	1,334	△489	—
1株当たり当期純利益(円)	209.12	△75.00	—
配当金(円)	100.00 (期末100)	100.00 (中間50/期末50)	
為替平均レート(1USD=)	135.53円	144.56円	

SMK

2023年度決算の概要でございます。2023年度は大幅な減収決算となりました。営業損益は売上の減少に加え、在庫評価損を計上したことから、大きな営業損失を計上しております。

大幅な減収は、いくつかの要因が重なり起こったといえます。一年間を通じまして、お取引先の在庫調整の影響を受けたことが一つでございます。

それからここ2、3年を振り返ってみますとコロナ禍にあって、コロナが落ち着いてきて、その中でお取引先の新商品への切り替えがあるなどいろいろなことが重なり、需要動向の見極めは難しい環境にございました。

このような要因が重なって、売上は前期比15%減の465億円に、営業損益は、在庫評価損7億円の計上を含め12億円の損失となりました。

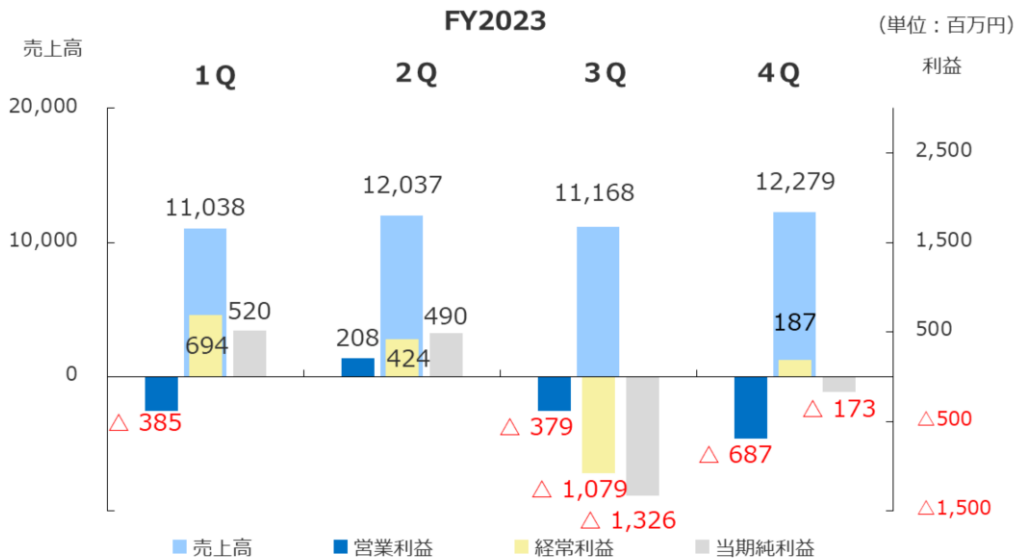
経常利益は、為替差益11億円の計上もあり、2億円強の黒字となりましたが、当期純損益は5億6千万円の減損を行い、最終的に4億9千万円の赤字となりました。

5ページをご覧ください。

1-2 FY2023 決算概要 | <連結> 通期業績 (四半期別)

5/19

- 1Qはスローなスタートに、2Qで黒字転換するも3Qに失速。4Qは売上高が120億円台に戻し営業利益をほぼゼロに戻すも、棚卸資産の評価損684百万円を計上し営業赤字に。



SMK

これは1年間の業績の推移を、四半期毎に示したものになります。1Qがスローなスタートになり、2Qは黒字転換し少し挽回したのですが、3Qで失速することになりました。4Qは売上が123億円となり、営業利益もほぼゼロまで戻しましたが、4Qに在庫評価損約7億円の計上を行い、この結果約7億円の営業損失となりました。在庫評価損については、2024年度を見据えて予防的に評価損を計上した側面もあります。

6ページをご覧ください。

1-3 FY2023 決算概要 | セグメント別

6/19

- CS : アフターコロナの反動減からタブレット関連が需要減となったものの、カメラ関連が堅調に推移し中華系顧客スマホが好調に推移するなどして、前期比増収増益に。
- SCI : 住設、車載等で前期比大幅減収。大幅な減収に加え、棚卸資産評価損の計上から営業損失が拡大。

(単位:百万円)

		FY2022実績	FY2023実績	前期比	
				増減額	増減率
CS事業部	売上高	19,997	20,586	589	+2.9%
	営業利益	894	1,095	201	+22.5%
SCI事業部	売上高	34,482	25,536	△8,945	△25.9%
	営業利益	393	△2,145	△2,539	-
開発センター	売上高	339	387	48	+14.2%
	営業利益	△160	△184	△23	-
その他	売上高	23	11	△11	△50.1%
	営業利益	1	△9	△10	-
合計	売上高	54,842	46,522	△8,320	△15.2%
	営業利益	1,128	△1,243	△2,371	-

SMK

こちらはセグメント毎の実績になります。CS事業部は、売上が前期比3%増の206億円、営業利益も23%増の11億円を確保することができました。

一方、SCI事業部は、在庫調整の影響等を受け、売上が前期比26%減の255億円と大幅減となりました。営業利益については前期の黒字から、21億円の赤字となっております。21億円の営業損失の中には、在庫評価損約7億円とメキシコペソ高による原価率の上昇約3億円が含まれております。

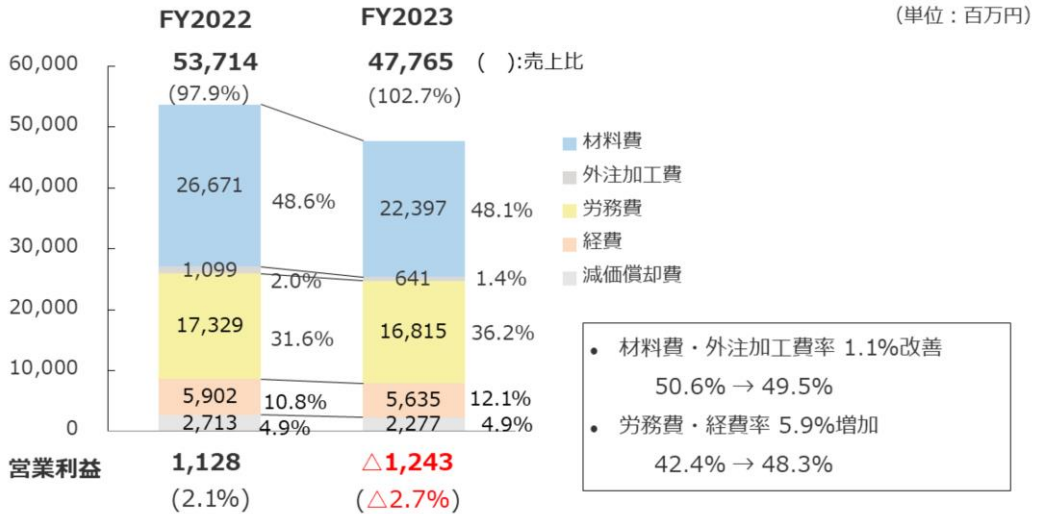
開発センターについては、前期と概ね同様の実績になりました。

7ページをご覧ください。

1-4 FY2023 決算概要 | <連結> 営業費用

7/19

- 材料費率はプロダクトミックスの影響等により1.1%改善
- 労務費・経費率は売上減少により5.9%増加



SMK

こちらが営業費用の内訳になります。

材料費と外注加工費は1%の改善となりましたが、労務費・経費は実額では前期比減少したものの、これ以上に売上減少幅が大きく、比率は悪化しました。

8ページをご覧ください。

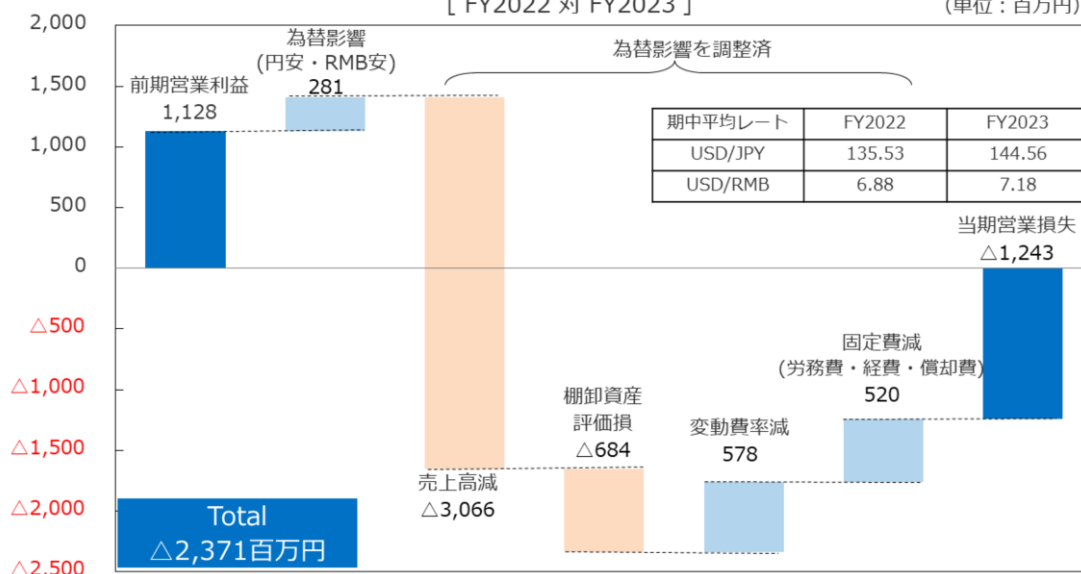
1-5 FY2023 決算概要 | 営業利益増減（対前年同期）

8/19

- 家電・車載市場の在庫調整による売上高減、棚卸資産評価損により営業利益が大きく減少
- 変動費率改善、固定費削減を行うも売上高減少の影響をカバーできず営業損失に

[FY2022 対 FY2023]

(単位：百万円)



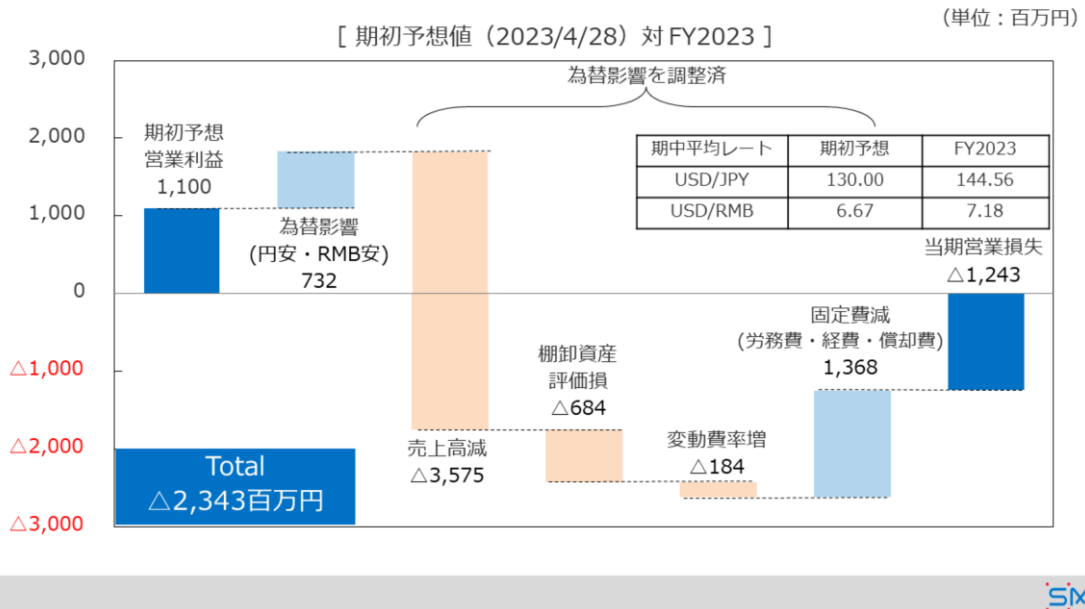
こちらは営業利益の増減要因、前期実績との比較になります。
 ご覧の通り、売上高減の棒がだいぶ長くなっています。変動費率の改善、固定費の削減は当然やってきたのですが、売上高減少の要因が大きく、これをカバーするには至らず、最終的に約12億4千3百万円の損失の計上となりました。

9ページをご覧ください。

1-6 FY2023 決算概要 | 営業利益増減（対期初予想）

9/19

- 家電・車載市場の在庫調整による売上高減、棚卸資産評価損により営業利益が大きく減少
- 固定費削減を行うも大きな営業損失を計上



同様に1年前4月の期初予想との比較になります。

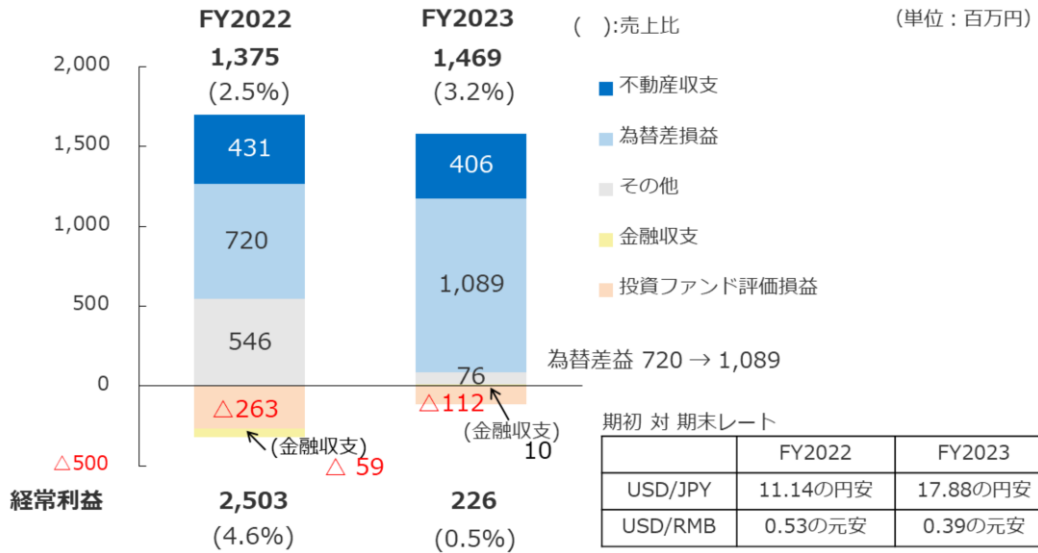
期初計画対比でも、売上減少が大きなマイナス要因に、また在庫棚卸評価損6億8千万円の計上も大きなマイナスの要因になっています。プラスの要因として若干の為替と固定費減がございますが、売上高減少要因が大きかったです。

10ページをご覧ください。

1-7 FY2023 決算概要 | <連結> 営業外損益

10/19

- FY2023は円安による為替差益と不動産収支が寄与



SMK

営業外損益の内訳になります。

営業外損益は合計で14億6千9百万円のプラスです。

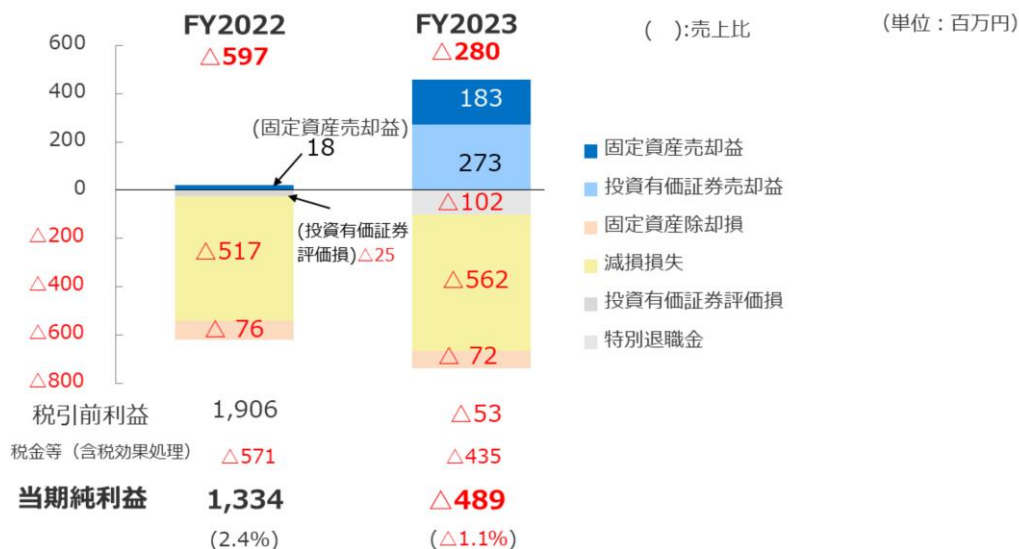
主要な内訳としましては、為替差益約11億円、不動産収益約4億円になります。

11ページをご覧ください。

1-8 FY2023 決算概要 | <連結> 特別損益

11/19

- FY2023は不動産売却益、投資有価証券売却益が寄与する一方で、固定資産の減損損失、米国拠点の組織再編による特別退職金を計上



こちらは特別損益の内訳になります。合計は、2億8千万円のマイナスになります。

プラスの要因としては固定資産の売却1億8千万円。これは大阪支店の移転に伴う売却益でございます。新大阪駅の近くに移転しております。

投資有価証券売却益2億7千万円もプラスのファクターです。一方、マイナスのファクターとしては、約5億6千万円の減損損失を計上し、こちらはSCI事業部の関連が太宗です。

1億2百万円というのはこれは特別退職金でございます。あとで、アメリカメキシコグループの経営体制の見直しの説明がございしますが、合理化を行った関係で約1億円計上しています。

12ページをご覧ください。

1-9 FY2023 決算概要 | <連結> 財政状態

12/19

	2023/3 (A)	2024/3 (B)	増減 (B - A)	(単位：百万円)
資産	56,365	58,444	2,079	
現預金	8,969	10,258	1,289	
受取手形及び売掛金	13,176	13,222	46	
棚卸資産	10,073	9,257	△816	
固定資産	23,113	24,619	1,506	
負債	24,090	26,300	2,210	
買掛金及び未払金	6,652	6,503	△149	
有利子負債	12,817	14,365	1,548	
純資産	32,274	32,143	△131	
資本金	7,996	7,996	-	
自己資本比率	57.3%	55.0%	△2.3%	

SMK

こちらの財務状態、次の13ページのキャッシュ・フローについては、後ほどご参照いただければと思います。

1-10 FY2023 決算概要 | <連結> キャッシュ・フローの状況

13/19

(単位：百万円)

	FY2022	FY2023
営業キャッシュフロー	3,591	3,719
運転資金	△758	1,610
税引前利益	1,906	△53
減価償却費	2,884	2,451
その他	△441	△289
投資キャッシュフロー	△1,944	△1,617
フリーキャッシュフロー	1,647	2,102
財務キャッシュフロー	△862	△478
有利子負債の増減額	△422	1,005
自己株式の増減額	△1	△498
配当金の支払金額	△438	△984
現金等期首残高	8,505	8,915
現金等期末残高	8,915	10,197

SMK

私自身、2012年に初めてIRを担当させていただきました。皆様には長きにわたり、大変お世話になり、御礼申し上げます。また会社に残りまして別の角度から頑張ろうと思っておりますけれども、この場を借りまして、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

以上で私のパートを終了させていただきます。

2. FY2024 業績予想

皆さんおはようございます。池田でございます。本日はお忙しい中、弊社説明会にご参加いただきありがとうございます。皆様からは日頃より貴重なご意見、ご指導賜り、大変感謝しております。今、大垣から説明がありましたが、厳しいビジネス環境であったとはいえ、売上を大幅に減らし、営業赤字、そして当期損失を計上することとなり、大変申し訳ございません。私から、事業部別、市場別の切り口で今期の見通し、そして引き続いて新しい中期経営計画についてご説明させていただきます。

15ページをご覧ください。

2-1 FY2024 業績予想 | 全社

15/19

- 不透明な市場環境を踏まえ、売上高は若干の増収を見込む
- 営業利益は前年度より大きく改善するものの、引き続き赤字予想であり、更なる売上確保・経費削減に努める

(単位：百万円)

	FY2023実績	FY2024予想	前期比
売上高	46,522	50,000	+7.5%
営業利益 (営業利益率)	△1,243 (△2.7%)	△200 (△0.4%)	-
経常利益	226	200	△11.6%
当期純利益	△489	0	-
1株当たり当期純利益(円)	△75.00	0.00	-
配当金(円)	100.00 (中間50/期末50)	100.00 (中間50/期末50)	
為替平均レート(1USD=)	144.56円	150.00円	

SMK

2024年度の業績予想については、為替レートを1ドル150円としております。ビジネス環境は下期くらいから改善してくると予想しており、売上高は前期比プラス35億円の500億円と増収ですが、営業利益は2023年度マイナス12億4千3百万円より大きく改善するものの、依然マイナス2億円と赤字です。経常利益は不動産収入など営業外利益プラス4億円があり、プラス2億円、そして税金などにより当期純利益はゼロとしております。営業赤字2億円の解消を目指して、さらなる売上確保や生産性向上のほか、経費削減などコスト削減を努めてまいります。なお、配当金につきましては新しい中期経営計画の説明時に株主還元方針をお話ししますが、中間配当50円、期末配当50円で合計100円を予定しております。

16ページをご覧ください。

2-2 FY2024 業績予想 | セグメント別売上・利益

16/19

- CS：タブレット用コネクタが新機種効果で伸長、車載用コネクタは堅調に推移
- SCI：エアコン用および住設用リモコン・ユニットは引き続き低調

(単位：百万円)

事業部		FY2023実績	FY2024予想	前期比	
				増減額	増減率
CS事業部	売上高	20,586	23,420	2,833	+13.8%
	営業利益	1,095	965	△130	△11.9%
SCI事業部	売上高	25,536	26,283	746	+2.9%
	営業利益	△2,145	△709	1,436	-
イノベーションセンター (開発センター)	売上高	387	297	△90	△23.4%
	営業利益	△184	△456	△271	-
その他	売上高	11	0	△11	-
	営業利益	△9	0	9	-
合計	売上高	46,522	50,000	3,477	+7.5%
	営業利益	△1,243	△200	1,043	-

SMK

セグメント別売上、営業利益の業績予想です。CS事業部はタブレット用コネクタや車載コネクタを伸ばし、二桁増収ながら売上増に伴い、共通費用の負担などが増えることから、営業利益については微減です。SCI事業部の売上は前期大幅に落ち込んで今期は回復するものの、エアコンや住宅設備用のリモコンユニット品が引き続き低調で微増の状況です。一方営業赤字は継続しますが、前期マイナス21億円から今期マイナス7億円と減少させます。新しい中期経営計画の中でも説明いたしますが、旧開発センターにマーケティング部の新規事業開発メンバーと営業担当者も加えて、イノベーションセンターが今期より発足しました。そのため、2024年度は通信モジュールビジネスの低調による売上減に加え、労務費負担も大きくなり赤字額が拡大します。

17ページをご覧ください。

2-3 FY2024 業績予想 | 市場別売上

17/19

環境認識

- 上期は住設を中心とした家電、車載市場の一部製品の在庫調整継続により不透明な市況が継続
- 市場により需要の濃淡はあるものの、全体として下期からの市況回復を見込む
(単位：百万円)

	FY2023 実績	FY2024 予想	前期比	
情報通信	7,908	9,000	+14%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 主要顧客のタブレット新機種への貢献により売上回復を見込む ■ スマホ用コネクタは堅調に推移
家電	17,500	18,000	+3%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 住設用リモコン・ユニットは在庫調整が継続し横ばい ■ サニタリー用リモコンは引き続き好調
車載	16,599	17,500	+5%	<ul style="list-style-type: none"> ■ E-Bike関係は市場在庫減少により売上改善 ■ カメラモジュール、カメラ用コネクタは堅調に推移 ■ EV用コネクタの拡大を見込む ■ タッチセンサーはEOLにより減少
産機・ その他	4,513	5,500	+22%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 太陽光発電用リモコン・ユニット、蓄電池用コネクタが堅調に推移
合計	46,522	50,000	+7%	
1USD=	144.56円	150.00円		

SMK

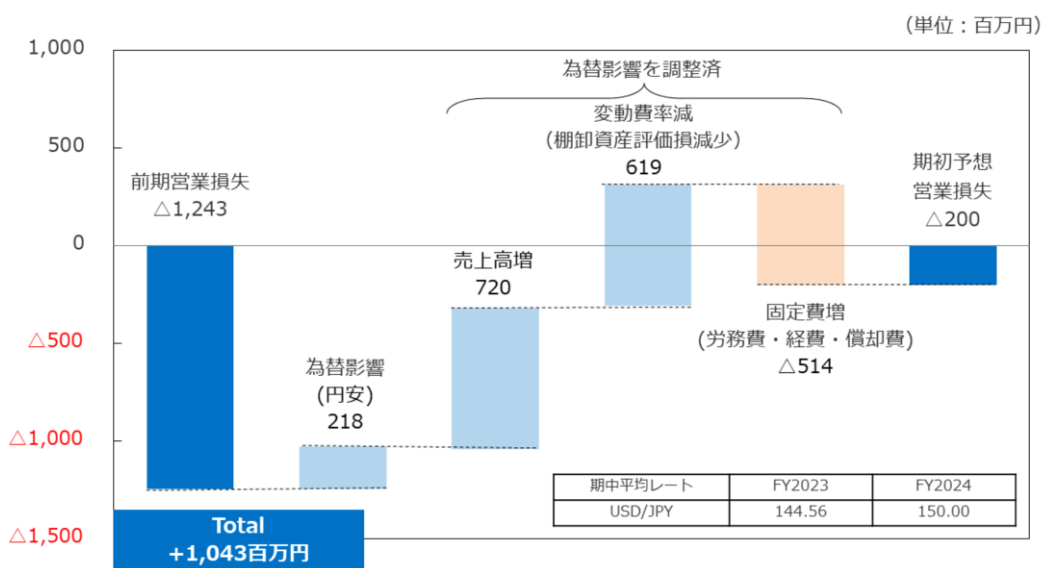
これは市場別売上予想です。前期についてはすべての市場で売上が減少しましたが、今期はすべての市場で売上を拡大させます。しかしながら、家電市場は在庫調整が継続し、車載市場は、カーナビ用タッチセンサーのビジネス終了などにより両市場の売り上げは微増となっております。情報通信市場は、スマホ用コネクタが堅調継続の上、タブレット用コネクタが回復することにより二桁成長を計画しております。産機その他市場は太陽光発電の家庭内操作ユニット品や蓄電池用コネクタの新規採用もあり大きく伸ばしていきます。

18ページをご覧ください。

2-4 FY2024 業績予想 | 営業利益増減

18/19

- 下期からの市況回復による売上高増、前期に計上した棚卸資産評価損の減少により営業赤字は縮小



これは前期営業損失12億4千3百万円から今期の営業損失2億円の改善内訳です。CSビジネスを中心に円安による利益を押し上げ効果が2億1千8百万円、売上増の効果で7億2千万円、そして前期は棚卸資産の評価損を計上しましたので、今期はその分がなくなることにより、6億1千9百万円の変動費が改善します。一方で減価償却費は横ばいですが、賃上げも行っており、労務費増、ビジネス活性化などによる経費増により5億1千4百万円の固定費増が発生し、トータルでは10億4千3百万円の改善となります。

以上で2024年度業績予想についての説明は終了させていただきます。

注意事項

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別の事情の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じる可能性があります。当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の業績見通しのみで全面的に依拠してご判断されることは、くれぐれもお控えになられるようお願いいたします。